

初めまして。

wireart artist 天理能（ありの）と申します。

私は、天然石のルースや原石などをアーティストックワイヤーで巻き、ジュエリーやオブジェを制作するアーティスト活動と、その作り方をお伝えする講師をしています。

この仕事をするようになり、すぐにスピリチュアルな学びともご縁をつなぐことになるのですが、当時の私はスピリチュアルってなんか怪しい、と非常に毛嫌いしていました。

その私が、なぜ、スピリチュアルを受け入れていこうと思ったのかはおいおい説明していきますが、その学びから心の世界を知り、深い癒やしと氣づきを得て、私自身の人生は変わっていききました。

自己探求していく中で意識が変わり、今までのやり方も変わり、視野が広がるとともに心が豊かになり、かなえない夢や目標を抱けるようになり、それがかなっていく現実になりました。

そして、何より毎日がいとしく楽しく感謝にあふれています。

ワイヤーアート作品は世界で一つだけのオリジナルで、お一人だけに届きますが、今回は本という作品を通して、私が学び、実践してきたことをわかりやすくお伝えし、皆さまの希望やお役に立つことを

たくさんの方々に届けられれば……。

そんな思いから、本を書かせていただくことに決心しました。

ところがです。

決心した途端、その思いにブレーキをかける出来事が現実には起こりました。

早くも書く氣力を失う自分が、思わぬかたちで現れました。

最初のやる氣を取り戻そうとしても、ある感情が寄せては返す波のように繰り返し心を支配します。

このときの私は無理やり進むのではなく、逆にその波に委ねてみました。

そしたら、なんと、本を出すことをやめればいい、また書きたくなくなったときには他を紹介することも

できる、という決定打になる話をしてくださる方を引き寄せました。

その、私に書くことをやめようとさせた感情とは、ある人のことを「許せない」というものでした。

その許せない感情は、またいつかどこかで書けるかもしれないという許可をもらったかのごとく、私の中で正当化され心が決まりました。

今回は本を出すことを辞退させていただこう。

その意思を伝えて、これですつきりさっぱりと本を書かない現実に進めると思ったのもつかの間、別の選択を迫られることになり、そう簡単には進めない事態となりました。

私は心の中に、怒りという感情をエネルギーに変え、自分の要求や主張が正しいと認めてもらうために、強行突破でファイティングポーズをとって戦う現実をつくることも、もう何もかも投げ出して、この機会があつたことさえも忘れるためにシャッターを下ろす現実をつくることもできます。

でも、この感情に委ねた選択をして現実をつくっていくと、初めは関係なかった方々まで許せない人物の対象になり、許せない事柄がどんどん増えていき、私の「許せない」感情はきつと増幅し、根を張り続け、最後には恨みに変わることでしょう。

これでは、明るい未来もなく苦しいだけです。

それまで「許せない」が支配していた心に、こうなることが私の望みだったのかという問いが現れた瞬間、この「許せない」感情を持ち続けると厄介であると、やつと、一筋の光が差し込みました。

それは、私の心の中にある神聖さを捉えることができる兆しです。

私は、その兆しを見失わないように、誰かに向けていた矛先を自分自身へ方向転換しました。

そして、同時に相手に向かって振り上げていた拳を下ろし、その手を創造する喜びのために使うことにしました。心と体はつながっていますから、まずは体を使って何かをし、いつもとは違う創造をする

ために加速度を上げ、もう立ち止まらないように行動に移します。

私は、その日、紙粘土とビー玉を購入しました。

この後、私が何をしたのか、そして、どのように心を癒やし回復させたのかは、本文で詳しく紹介していきます。

そもそも、「許せない」というものは、自分の中の強情で傲慢な感情にすぎません。矛先を自分に向けると氣づけますが、その渦中にいると、相手が悪いから「許せない」というのを盾に、それが自分の中で正当化され、そこを認めてほしい、わかってほしいばかりになります。

ただ、その自分を知つても責めることも否定することもありません。そうして自虐的になるのも罨です。それは、自分の無価値観を刺激するパターンに陥ります。

神聖な心は、どんなことも何の役にも立たなかったことにはしません。どんなものでも、必要な学びであり、氣づき改めてよかった、いい経験を積んだという見方で心を癒やし、自分とみんなが幸せでうまくいくにはどうすればいいのか、という選択を自分の中に宿してくれます。

本という作品を出す覚悟は整いましたか。どんなことが起こっても、もうブレることなく進みますか。

もしブレたとしても、この神聖さをいつでも取り戻し、やっていきますか。というこれらの問いに答えられる自分になるために起こったことで、前とは違った心持ちで、この本を書き上げることに真摯に向かっている今の私がいいます。

一つひとつの出てきた感情や意識に心から感謝しています。その感情が表面上に表れてくれたからこそ、変わることができ今の私をつくっています。

こうして私自身が、心の世界を学び、どんな自分も引き受けて、自分と向き合って、創造してきた経験が皆さまの人生のお役に立てることを望み、本書を綴っていかうと思えます。